

小規模多機能型居宅介護事業所及び認知症対応型共同生活介護の自己評価票

(網掛け部分は外部評価の調査項目)

事業所名： グループホームほうらい

ユニット名： 記入日：平成 19 年 6 月 8 日

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の運営理念、ケア方針を作っている	○	新しい理念やケア方針も考えていきたい
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや会議など職員が集まる時を利用し、常日頃より話を意識してもらうようにしている	○	今後も機会あるごとに理念について話を行っていきたい
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関や廊下、サービスステーションに理念、ケア方針を掲示している。また入居時、家族や本人に説明している	○	地域向けのホーム便りに理念を記載し地区の回覧板と一緒に配布していきたい
	2. 地域との支え合い			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	玄関先に花を植え、横には家庭菜園の畑があり気軽に立ち寄りしてもらえるようにしている	○	出来た作物を近所の方に配るなどし付き合いを深めたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祇園や花火大会、運動会等に積極的に参加している。また地域の道路愛護にも協力している	○	今後も地域の色々な行事や老人会に参加していきたい
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近くのスーパーや美容院を利用し顔馴染みになっている。地域の人達が気軽に遊びに来たり立ち寄りたり出来るよう取り組んでいる	○	老人会等への参加も行っていきたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ全員に自己評価表を配布し、外部評価を実施する意義を説明し理解してもらっている	○	常に改善に向け一人ひとりが取り組んでいる
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開き民生委員、自治会長、包括支援センター職員、家族、他施設の職員に参加して頂き利用者の生活や状況を報告している	○	参加者がもっと意見を出せるような会議進行を行っていききたい。また利用者が参加できるよう二部構成も行っていききたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の職員と連絡を取り介護研修などの情報を得ている	○	今後も今まで以上に市町村と密に連絡をとり市町村事業を積極的に受諾していききたい。また運営推進会議への参加の働きかけを行っていく
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	会議の時に、地域権利擁護事業や成年後見制度について学びの場を設けた。家族の方には入居時、退去時に説明を行っている	○	運営推進会議の場でも資料を配り説明していく
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に入居者の対応について注意し、会議の場でも話し合いをしている	○	言葉使いや支援について、細かいところまで指導を行ってなっていく
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、利用者や家族に必ず説明を行い理解、納得をしてもらっている	○	今後も行っていく

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の希望どおり、いつでも家族への電話連絡、手紙、面会など出来るようにしている	○	入居者が自ら感情をそのまま出せるような対応をしている
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や家族会などで報告している。遠方で来られない家族には電話や書面で報告している	○	今後も行っていく
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。運営推進会議の時は事前に家族の方に苦情相談アンケート用紙を配布し書いて頂いている	○	今後も行っていく
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃より職員の意見提案を聞き改善し反映している	○	今後も職員の意見を聞き入れグループホームの発展に繋がるようにしていく
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況に応じスタッフの勤務調整に努めている	○	行事の時など他部所のスタッフの協力を得る事も考えていく
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限に抑え、新しいスタッフに代わった時は、紹介をしすぐに馴れてもらうよう周りのスタッフが間に入り配慮している	○	利用者へのダメージを防ぐ配慮をしていく
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用は母体の老健が行っている。グループホームで働く職員についてもその能力を発揮し生き生きとして勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	○	勤務時間、休みの希望等も極力応じるようにしている

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し勉強会を行っている。また豊前市人権後援会への参加や資料を職員に配布し勉強会を行っている	○	今後も行っていく
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回勉強会を行っている。実践研修も予定している	○	今後も研修には積極的に参加してもらう
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議の時に、他グループホームの管理者に勉強会に来て頂いたり、またこちらから伺ったり交流を図っている	○	今後も交流を図り向上させていく取り組みを行っていききたい
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者、職員の話をよく聞き、各自のストレスや悩みを理解し解決している 食事会や親睦会も実施している	○	今後も行っていく
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回、自己評価をしてもらいフィードバックの時には実績を認め今後も頑張ってもらおうよう働きかけている	○	今後も行っていく
	II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	訴えある時は、本人が納得するまで話をよく聞き対応している	○	今まで以上に信頼関係を築いていきたい
26	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の面会時には、こちらから何かありませんか等、声かけし話を聞いている	○	家族からの信頼を得るよう努力していく

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた時には、本人と家族が必要としている支援を見極め対応している	○	今後も適切な支援をおこなっていく
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に施設に遊びに来ていただいたり、入居時、不安軽減を図るため家族と一緒に泊まっていた	○	今後も家族と相談しながら施設の雰囲気徐々に馴染めるよう工夫していく
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	台所仕事を手伝って頂きながら、味つけや漬物の漬け方を教わったりしている。また野菜づくりを学んでいる	○	今後も利用者に色々なことを尋ねながら支えあう関係を築いていく
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の方より家で採れた野菜や果物を皆で頂いたりしている。又家族の方に施設で抹茶をたててもらい入居者と一緒に頂く事もある	○	家族の方と一緒に本人を支えていく関係が少しずつ築けている。今後も努力していきたい
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	誕生日会など、家族を交え外食をしたり手紙や写真を送っている	○	より良い関係が築けるよう支援していきたい
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院を利用したり、住み慣れた近くの公園や神社へ出かけている また本人が過ごして来た場所へ行きたいと希望があった時は訪れたり、馴染みの方と話をしている	○	希望あった時は支援していく
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	孤立しないようスタッフが介入し、利用者同士うまくいくよう言葉かけしている	○	利用者全員が楽しく過ごせるよう支援していく

34	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も訪問し、利用者の状況を伺いにいった	○	今後もこのような事があれば続けていきたい
----	---	-----------------------	---	----------------------

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の状態や生活歴、ライフスタイル等把握し、本人や家族にも要望を聞き取り入れている	○	本人のいちばん望んでいる事を見つけていく
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとり馴染みの家具やキーボード、仏壇などを置き昔の生活を思い出し落ち着かされている	○	本人、家族とコミュニケーションをとり一人ひとりの生活歴を知りQOLを高めていきたい
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	バイタルチェックとともに顔色や表情の観察を行い状態を把握している	○	今まで以上にメンタル面の観察行っていく
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、関係者の意見を聞いて協働で介護計画を作成している。利用者からも会話の中からさりげなく話を聞き、本人主体の介護計画に反映させている	○	より一層細やかなケアを行っていく
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、介護計画の見直しを行っている。また状態の変化に応じ随時見直しを行っている	○	毎月の会議でも気づきや意見を出し合っている

40	○個別の記録と実戦への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、昼夜を通して実践し個別に記録している。変化があった場合は申し込み、見直し、次の計画に活かしている	○	今後も行っていく
----	---	---	---	----------

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じて母体の老健と連携をとりリハビリや管理栄養士より指導を受けている	○	老健のスタッフで作っている神楽チームに依頼をし慰問に来て頂く
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
7 42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署や警察署にも働きかけ、入居者の安否の見守りをお願いしている。商店街にも買い物に行き顔見知りになっている。	○	色々な人達の協力を得られるよう、お願いして行く
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅介護支援事業所や他の施設のケアマネージャーとの連携を図り支援している	○	他施設や支援事業所との交流を深めていく
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営会議に参加して頂き、話し合いの場を設けている	○	必要に応じて地域包括センターと協働していく
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれに主治医がおり、2週間に1回受診している。気軽に相談できている。緊急時には協力機関もある	○	これからも医師との情報交換を蜜に行い支援していく

46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に知見の深い医師に指示や助言をもらっている。	○	よりいっそう医師とのコンタクトをとり認知症に関する勉強会などに参加させて頂きたい。
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	正看護師がほぼ毎日入居者の状態を観察し、週一回勤務している。又24時間体制が整っている。	○	看護師との連携を密にとり、利用者の健康管理に努めたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が入院された場合、管理者が様子を伺いに行って連絡をとり、早期退院できるように努力している	○	今後も医療機関との情報交換や相談を行い早期退院出来るように務めていく
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に予め方針をきめている。重度化した場合は早い段階から本人、家族や、かかりつけ医とくり返し話し合いをもった	○	看取りについては課題であり、他施設の事例を聞き、関係者と話し合いを持ちながら取り組んでいきたい
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人、家族の意向を出来る限り受け入れ、かかりつけ医、看護師と連携を取りながら支援を行った	○	今後も出来る限りの支援に取り組んでいきたい
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他施設へ移った際、情報提供し、本人が慣れるまで、できるだけ顔を見せるようにした	○	住み替え時にはできるだけダメージのないよう努力していきたい
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉がけや記録など尊敬語を用いるようにしている。個人情報には部外者が入れない場所に、重要書類はカギのかか	○	今後もプライバシーの確保は徹底していく

		る所に保管している		
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	洋服をきめたり食材を選んだり、日々の暮らしの中で選んでもらう場面を作っている	○	料理なども一人ひとりの希望を取り入れていきたい
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や入浴、食事などその方のペースで行うよう心がけている	○	これからも職員は利用者のお手伝いをするとする考えのもと、一人ひとりにそった支援をおこなう
番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの美容院に行く方3名、近所の美容院に行く方6名それぞれグループホームから連れて行っている。洋服は本人が着たいものを選んでる。その人に合った化粧品を準備している	○	昔からその人が馴染んできたものや、ところを大事にしながら、いきいきとされるよう支援する
56	○食事を楽しむことのできる支援 重食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に食の準備、片付けをしている	○	準備や片付けの出来ない人も参加できる方法を考えていきたい
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	配茶時には好きな飲み物を選んでもらっている。おやつも好みの物を買ってきたりして一人ひとりの状況に合わせて用意している	○	利用者が昔作っていたおやつを週1回のおやつ作りに、もっと多く取り入れ利用者と一緒につけていきたい
58	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表があり、排泄の自立に向けての誘導を行っている。夜間も個人個人に合わせた排泄介助を行っている	○	これからも、気持ちよく排泄できるようその人にあった支援をおこなっていく

59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日沸かし、14時から16時30分まで入浴したい人が入浴を楽しんでいる	○	スタッフの協力を得たりして24時間いつでも入浴できるようにしていく
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	寝付けない方には居間で温かい飲み物を飲んで頂きしばらく話をしている。休息の必要な方にはソファやSS、自室で休んでもらっている	○	これからもコミュニケーションやスキンシップをとりながら安心して眠れるように支援する
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎回の食事の準備、片付け、洗濯干しやたたみ、家庭菜園を行い、一人ひとりが得意とすることを見だし、持てる能力を活かせるようにしている。又曜日によりレクリエーション活動や音楽療法も取り入れている	○	生活歴を知り一人ひとりの趣味活動をもっと深めていきたい

10

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が自己管理困難であるが、受診や買い物の際はお金を渡し、ご自分で払って頂いている	○	忘れないようにお金に触れる機会をつくっていく
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の買い物、散歩、ドライブと入居者に積極的に声かけし出かけている	○	これからも希望を聞き外に出かける機会を増やしていく
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月、行事で花などを見に外出している。外食にもよく出かける。誕生者には家族を誘い外食に行くこともある	○	これからも入居者が楽しめる場所を見つけ、出かけた
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時すぐに家族に電話を取り次いでいる。また手紙も書いている。お孫さんの誕生日に電報を打ったことも	○	本人の希望どおり支援していく

		ある		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	毎日、一週間に一回、月に一回訪れる家族、様々ある。いつ来られても歓迎し、お茶を接待している。宿泊も可能である	○	利用者と楽しく過ごせるよう工夫、接待していきたい
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を行い、身体拘束は行わないということを全ての職員が正しく認識して身体拘束のないケアを実践している。マニュアルもある	○	今後も拘束のないケアを行っていく
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は朝7時から夜19時までには鍵をかけていない。手押し式自動ドアの押す位置を上部にずらす工夫をした	○	自由に出入りのできる玄関、鍵をかけないケアを実践していく
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者を見守れる場所で記録している。調理をしながらホーム内を見渡すことができる	○	常に利用者の所在、安全確認をしながらプライバシーに配慮していく

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁は夜間ケースに保管している。ハサミ、針などは本数を表示し常に確認している	○	今後もきちんと管理し危険を防ぐ取り組みをしていく
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	救急、行方不明、非常マニュアルあり。定期的に勉強会を行っている	○	今後も行っていく
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師の指導で応急処置や掃除機を使った吸引方法の勉強会を行った	○	今後も定期的に行っていく

73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルに従い避難訓練、通報訓練を年2回行っている。今年は消防署員3名に来て頂き入所者を交え防火、避難訓練を行った。近隣の方に協力を得られるよう電話番号を尋ねている	○	今後も消防署と連絡をとりながら訓練を行っていきたい
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時家族に説明している。家族より情報開示要求あった時はすぐ提供できるようにカルテ、報告書を記録、整理している	○	これからも家族への説明、話し合いを行い、よりよい対応をしていきたい
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック、顔色、尿色、皮膚などの観察を行い、異常がある時は看護師と連携をとり指示をあおいでいる。必ず記録している	○	一人ひとりの少しの変化も見逃さないよう務め、速やかな対応を行っている
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の個々の薬の目的を職員は把握しており、正しく服薬できるよう支援している。薬が変わったときなど、症状の変化や副作用などに注意している	○	今後も薬の目的、副作用などの把握を職員全員に徹底していく
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	飲食物の工夫や水分補給を行い、腹部マッサージも行っている。歩行困難な方や車椅子の方には、出きるだけ身体を動かす働きかけを行っている	○	今後も行っていく

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後支援しながら歯磨きをしている。異常がある時は直ぐ歯科受診している	○	毎食後の口腔ケアと口腔内の観察を続け、状態に応じ支援していく
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事量、水分量は把握している。食事のカロリー計算は母体の老健の管理栄養士がおこなって	○	食事や水分の取れにくい人には栄養補助食品、トロメリンも使用している。一人ひとりに合った調理法を行って

		いる		る
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対するマニュアルあり。インフルエンザの予防接種は全員実施している。スタッフ全員の手洗い励行と消毒、手袋、マスクを使用している	○	インフルエンザの時期にはイソジンうがいを行っている
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日新鮮な食材を買い求め、買いすぎないように心がけている。調理台、器具、冷蔵庫、引き出しはアルコール消毒を行っている。衛生チェック項目を掲示している	○	食中毒の多い6月と9月は特に注意している。調理後はできるだけ早く食べるようにしている
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに花を植えたり、手作りの看板を置き入りやすくしている	○	今後も季節の花や野菜を植えいろんな人たちに来て頂きたい
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ちついた雰囲気を出すような家具の配置を心がけている。入居者が落ち着けるような品々を飾り、季節の花を絶やさないように各場所に飾っている	○	今後もその人にあった飾り付けを考えていく。花も絶やさず、季節を感じて頂けるようにしていく
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室前廊下が回廊式になっていて、その所々にソファを置いて気のあった方同士で自由に過ごせるようにしている	○	利用者一人ひとりが思い通りに過ごせる居場所作りを工夫していきたい
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人にあった家具の配置、装飾などに配慮し、入居者が落ち着けるような居室づくりを行っている。馴染みの家具や仏壇、道具を置いている	○	家族と相談しながら本人が望んでいる部屋作りをしていきたい
番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	床暖房や各居室のヒーター、クーラーなどで温度調節し、まめに換気を行っている	○	利用者に合わせた温度調節を行いできるだけ自然の空気を味わって頂くよう心がけている
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットサイドには滑り止めマットを敷き、立ち上がり時、滑らないようにしている。入所者が安全に炊事を行えるようにIHを使用し、流し台を低く作っている。必要な場所には手摺りをつけ、ベンチ、イスも置いている	○	これからも安全で自立した生活ができるよう環境を工夫していきたい
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室及びトイレや浴室など、各自がわかりやすいように目印やネームプレート、のれんをかけている	○	今日の日付、曜日がわかる工夫をしている
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭やウッドデッキでレク活動、お茶飲み会を行っている。畑での野菜作り、草取りなどおこなっている	○	過ごしやすい季節は、出きるだけ外気に触れるよう働きかけている

14

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
V サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない

92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

15

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ○②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	○職員は、生き生きと働けている	○①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○①ほぼ全ての家族等が ②家族の2/3くらいが ③家族の1/3くらいが ④ほとんどできていない